

# かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 11 No 06

119号

平成15年 6月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

## 怒ると叱る

院長

皆さんは、お子さんを叱っていますか、それとも怒っていますか。今回は叱ると怒るについて考えてみましょう。叱ると怒るの意味の違いはどこにあるのでしょうか。辞書〔三省堂:大辞林〕を引いてみました。辞書による違いは次のようになっています。叱る：(1) (目下の者に対して) 相手のよくない言動をとがめて、強い態度で責める。「子供のいたずらを ・る」(2) 怒る。「猪のししといふものの、腹立ち ・りたるはいと恐ろしきものなり/宇治拾遺10」(3) 陰で悪口を言う。「あのやうなしわい人はあるまいと申して、皆 ・りまする/狂言・素襖落(虎寛本)」。怒る：(1) 腹を立てる。立腹する。いかる。「真っ赤になって ・る」。(2) しかる。「先生に ・られる」。辞書を見るかぎり、どうも意味は同じ様に思われます。実際どんな場合に、お子さんを叱ったり怒ったりするのでしょうか。幾つかの例を挙げてみますので、皆さんも考えて下さい。食事中にたまたま茶わんをひっくり返した。急に道路に飛び出そうとした。電車の中で騒いでいる。ストローからジュースを吹き出して遊んでいる。危険なもの〔例えばナイフ〕を取ろうとしている。他にもたくさん状況があるでしょう。そんなときどう対応しますか。ちょっと話がかわりますが、一才健診の時「お母さんが言っていることがわかりますか」と聞きます。「おいで」や「ちょうだい」は、多くのお子さんは理解しています。時々「ダメ」というのがわかるというお母さんがいます。一才で「ダメ」という言葉の意味が理解できるのでしょうか。実際にはほとんどのお子さんは理解は出来ていません。理解してるということは誤解で、「ダメ」という語気の強さにただびっくりして動きが止まっているだけなのです。疑うようなら、一度やさしく「ダメ」と言ってみて下さい。「ダメ」といっても、きっとそのまま続けてしまうと思います。さて「ダメ」が理解できるようになるのは、

何才ぐらいからなのでしょう。やさしく言ったダメが理解できるというのは、善悪の区別が出来始めるころからです。せいぜい3才ぐらいからと思っても間違いはありません。なぜ理解の話が突然でて来たのでしょうか。理解が出来なければ、叱っても怒っても意味はないということです。では叱らなくても怒らなくてもいいのでしょうか。決してそうではありません。お子さんの身に危険が及ぶような場合、例えば急に車道に飛びだす、火のそばに近づくと、危険なものを触るなどの場合は例外です。やさしく言ってもわからない時期であれば、強めに言ったり多少なら痛みで覚えさせることも必要かもしれません。



最初の話に戻って、叱ると怒るの違いについてももう一度考えてみましょう。自分は叱るのは相手のため、怒るのは自分のためと考えています。子どもがうっかり牛乳などをこぼしたとき、多くのお母さんは怒ります。親の思い通りにならないときは、これも怒ってしまうのです。汚れてたカーペットのことを考えると、腹立たしくなります。思い通りにならないと、これもまた腹立たしさの原因です。この腹立たしさを相手にぶつけることが怒ることだと考えています。自分の心の中の感情から生まれるものが、怒るということなのです。では叱るということはどういうことでしょうか。叱るということは、相手のためにする行為です。自身に危険が及ぶようなことや他人に危害や迷惑をかけることは避けなければなりません。叱ることは、しつけの一つと考えてもいいでしょう。子ども自身を守るためや社会生活にうまく対応する方法を身に付けさせるために叱るというのが正しい叱り方でしょう。叱るより褒めることが良い子育てということを聞いたことがありますか。確かに一理あります。褒めることも大事ですが、叱ることの大切さももっと理解して欲しいと思います。相手が理解しなければ、叱ることの意味はありません。3才までは叱ることの意味も薄いことを知って対応してあげましょう。叱るということはしつけの一つと考えて、上手な叱り方を身に付けて下さい。そして褒めてあげることも忘れずに。決して自分の感情だけで、子どもを怒るということはしないように。

### 6月のお知らせ

- ・ 休日当番
- 6月29日〔日〕在宅当番です。
- ・ 栄養育児相談 毎週水曜日
- 13:30~

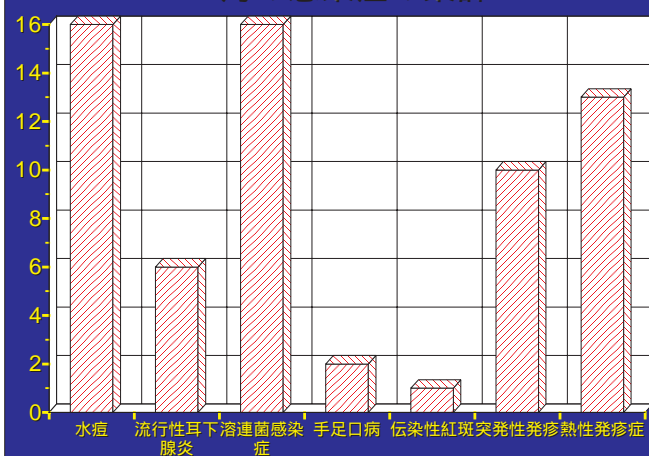


## 読者の広場

先月はちょっと少なめでしたが、19通のメールを戴きました。東京へ引越した櫻井さんからのメールを紹介します。「こんにちは。先日までお世話になっていた櫻井萌乃佳の母です。東京に来て早3週間が過ぎ、何とかこちらの生活にも慣れてきました。ほのかもお蔭様で風邪もひかず、元気に公園で走り回っています！。小児科を社宅の方に色々聞いてみると、やはりいい小児科はすごく混むようです。しかも予約制とのこと。ですが、近所の病院はほとんど8時とか9時まであいていて、とってもビックリしました！！。子どもがいると体調を崩すか分からないので助かりますね。ほのかに「川村先生とは違う先生になっちゃうね」と話すと、相変わらず先生の真似をして、あーん・もしもし・チクンをしていました。仙台にいる頃は本当にお世話になり、私自身もとても心強かったです。こっちでも先生のような先生に出会えればいいなあと思っています。また仙台に帰ったとき、お世話になるかもしれませんので、よろしくお願いします。では、またメールさせていただきます！。先生もお体に十分きをつけて、頑張ってくださいね！！。」ありがとうございます。きっといい先生に巡り合えると思います。引越してから頂くメール、本当にありがとうございます。先月から、新しい「お母さんクラブ」が始まり、第1回は、SARSの話でした。参加した宮城野区の毛利さんから頂いたメールを紹介します。「今日は、「お母さんクラブ」に初めて参加させて頂きました。期待していた以上に有意義でした。先生のSARSの講義の分かりやすさは勿論のこと、アットホームな雰囲気なかでの講義というのは、とても新鮮でした。子供が騒いでいるのに、それにいやな顔をしないで講義を続けて下さる先生、それをフォローするスタッフの皆さん。託児付きのいろんな講座はあっても、子供と一緒に参加できる講座というのは、主催者側の理解と意欲がない限り、なりたないはずですよ。また、参加するお母さん方にも意欲と大らかさを感じました。子供達の騒ぐ声があっても、聞く姿勢さえあれば、ちゃんと理解できるんですね。静かな環境でなくても、話す側と聞く側に意欲があれば講義は成り立つんだなあ、良い意味でのカルチャーショックを受けた私です。「お母さんクラブ」に参加できるのは育児休暇中の今年度に限られるでしょうが、先生やスタッフの皆さんと会える機会を求めて、出来る限り参加させて頂きたいと思います。時には、三兄弟連れての出席で、迷惑をおかけすると思いますが、宜しくおねがいします。」。次は宮城野区の相沢さんから。「こんばんは！。今日のおかあさんクラブは、気になっていたSARSだったので参考になりました！。しかし、うちの『しゅん』がうるさくて...大変迷惑おかけしました。先生の話のをさえぎるくらいの大声で、母親の私もうるさくて仕方ありませんでした（苦笑）。しかし、参加したお母さん方が少なくて残念です！。SARSはたくさんのお母さん方が気になっているはずですよえ...。私は新聞やテレビで報道されていたより詳しく説明をしてもらえたので、とても参考になりました。そして、少しホッとしました！（イメージはすぐ死んでしまう怖い病気という感じでした）。次回のおかあさんクラブも楽しみにしています！。そうそう、商品券ありがとうございました！。何もしていないのに二千円分も入っていてビックリしました(^o^)。最後に、携帯を新しい物に機種変更したら、なんとっ？！長いメールも切れることがなくなりました。これで先生からのメールも全部切れずに読めるようになります！！。では、今日は息子がうるさくてすみませんでした。相沢年子三人ママより」。文中の商品券は2月の取材のお礼です。この取材によるビデオ、もうすぐ完成です。近日中に待合室で公開予定、乞うご期待。



## 5月の感染症の集計



水痘と溶連菌感染症が減少傾向とお知らせしましたが、今月はまた増加しています。麻疹は広がりませんでした。夏カゼの手足口病もでています。岡山県で風疹の流行があり、先天性風疹症候群の報告もされています。麻疹だけでなく、風疹の予防接種も忘れずに。

## ラジオ番組と情報紙の紹介

東北放送ラジオ ポリウムワイド

毎月第一木曜日 13:30~13:40 ぐらしのめあて

生放送でこどもの病気や話題を提供しています。次回は6月5日です。スタジオ入りのため、御迷惑をおかけする場合がありますが、御協力をお願いします。

リビング仙台 ウエルネス通信

毎月第一土曜日で、子どもの健康を担当します。読者からの質問にお答えるコーナーです。6月には喘息が掲載される予定です。

NHK よじらじ! 宮城

6月24日【火】ぐらしと健康を担当します。夏カゼについて話す予定です。乞うご期待！。

## 編集後記

相変わらず仕事の一つ終わると、終わらないうちかな？。また一つ仕事が入ってきます。NHKのよじらじも新しい仕事です。もちろんこれは一回だけですが、泉の三好耳鼻科の勉強会の講師も頼まれました。今月の22日には小児救急医学会でシンポジウムです。なぜかさっぱり暇にならない、先生のグチでした。

